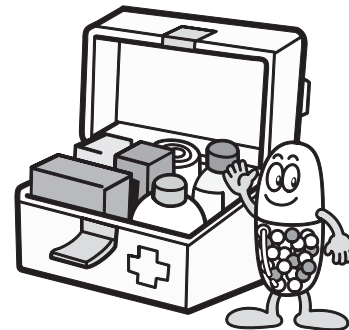


く す り ば こ



67. 手持ちの薬を整理してECO!!

私の小さい頃は、地方に住んでいたこともあり、お腹の調子が悪い時や熱を下げる際に置き薬を利用することがままありました。置き薬が重宝された理由は、年に1度は訪問し、在庫量を確認して、使用分の薬代と交換に新しい薬と入れ換えが行われたことにあります。また、期限切れがあれば、多くの場合は無償で交換してくれる定期的な薬整理も実施されました。医師から処方を受けてる薬をお持ちの皆さんの薬の管理は如何でしょうか？

ある製薬メーカーの調査によりますと「処方された薬を飲みきれずに、余らせることはあるか」との質問に対して「よくある」(23.2%)と「たまにある」(49.8%)という結果。また、飲み忘れについての質問でも「よくある」(9.6%)、「たまにある」(61.9%)と、どちらも7割以上の方が飲み残しに繋がる状況にあることが報告されています。実際に、処方された薬が使用されることなく手元に保管されている場合も多いようです。

本誌225号(2010.6月発行)で当院での入院時持参薬のことを記載していますが、薬剤師が持参薬の確認時に気が付くことの一つに、直近以外に処方された持参薬が多くあることです。多くの場合、飲み残し又は飲み忘れによるものと思いますが、余っているにも関わらず新たな処方と同様の薬が処方され、大事に保管されている様子も伺えます。

診察の時のお薬の扱いはどうでしょうか？医師は患者さんの服用状況と病状への効果や変化を確認して、その後に必要な薬を日数分処方します。この時、患者様の方から現在の手持ち状況を小まめに報告して頂ければ、それに応じた薬の処方となります。このように、処方を受ける患者様側のちょっとした意志表示が、必要のない薬の処方を防ぐことに繋がります。服用出来ていない薬を診察時持参して医師に見せたり、「お薬説明書」(一般に「薬情」と言われているもの)に、手持ちの薬の数量を記入して見てもらうのも良いかも知れません。

きちんと薬を飲んでいないことで、医師に対して申し訳ないと思い、医師の処方そのままに薬をもらう場合もあるかもしれませんが、結果として医師の診断や処方を誤らせ、以後の治療に問題を残すことにもなります。それが投与量の増加、薬の追加、薬の変更となり、本来必要としない薬が増える一因にもなります。薬の量、種類が多くなることによる副作用や、それによる相互作用への考慮も必要になります。

近年、毎年のように医療費のことが話題に上がります。年間34兆円の国民医療費の内、薬剤費用は約20%、7兆円にもなります。患者負担が3割としても、残り7割(5兆円)は、税金等で賄われることとなります。2012年4月からも診療報酬改正予定がありますが、国は医療費を何とか圧縮しようと試みています。薬に関しては、その対応策の一つとしてジェネリック医薬品(後発薬)の使用を強力に推進していますが、本来、適切な薬の需要(適切に服薬・使用されている)に対して的確な供給(医師処方)があつての話と思われそうですが如何でしょうか？

無駄の無い薬物治療の実践として、まず、もう一度身の回りの手持ち薬を確認・整理しましょう。この際、薬剤師に相談・協力を仰ぐのも一つの方法です。



豆知識

5月5日は「薬の日」(推古天皇による薬草狩りの日)です。



(薬剤部部長 金子 廣保)